

## 日本の伝統的な棚田を利用した町おこしに ボランティアとして参加する技能実習生の事例



「あぜのきらめき」イルミネーション

石川県輪島市にある白米千枚田<sup>しろよねせんまいだ</sup>は、日本の棚田百選や国指定文化財名勝に指定されている観光スポットですが、近年は「あぜのきらめき」と名付けられたイルミネーションで人気を集めています。この日本の伝統的な棚田の風景を利用した町おこしには、地元企業がLEDを提供する等して協力しており、さらに同企業の中国人技能実習生もイルミネーション設置のボランティアとしてこの活動に参加しています。今回は、この日本特有の棚田を利用した町おこしに参加する技能実習生について、協同組合アイテック理事長の紺谷さん、石川サンケン株式会社 取締役の松田さん、課長の中野さん、そして元技能実習生で現在は同社の社員として活躍されている王 春芳さんにお話を伺いました。



石川サンケン株式会社 中野さん、王さん

### 自社製品で町おこしに貢献する実習実施機関

今回取材させていただいた石川県羽咋郡にある石川サンケン株式会社は、1978年の創立以来、自動車電装品や情報通信機器、家庭電化製品等に使用される半導体等の電子部品の製造をしている会社です。技能実習生の受入れは1998年から始められ、これまでに中国とインドネシアからの技能実習生を受け入れています。今回紹介する「あぜのきらめき」のイベントは、もともとは2007年の能登半島地震による風評被害からの脱却を目的に始められたキャンドルの点灯が始まりとのことですが、2011年からは同社のアイデアによりキャンドルを21,000個もの太陽光発電LEDライトに替えてイルミネーションを行っています。同社はこのイベントの協賛企業として自社製LEDライトを提供しているだけでなく、その設置には社員のみなさんもボランティアとして町おこしに協力すべく参加されています。このたくさんのLEDライトが海沿いの棚田の美しい曲線に沿って輝く様子は県内有数の観光名所となっています。

### ボランティアとしてたくさんの技能実習生や地域住民が参加

このLEDライトの組立て及び設置は、毎年県内外から広くボランティアを募って行われますが、石川サンケン株式会社からも150名程度の社員が自主的に作業に参加しています。同社に所属している技能実習生も意欲的に参加しており、毎年このイベントをととても楽しみにしているようです。この活動に参加する技能実習生について聞いたところ、技能実習生たちにとって設置の作業がおもしろいだけでなく、いつも優しくしてくれる能登のみなさんのために活動できるので、この活動に参加させてもらえることにととても感謝しているとのことでした。さらに、ボランティア当日も会場までの交通の事情から、職場の日本人の先輩や上司の車に乗り合わせて和気藹々と移動するようで、技能実習生にとってはこの活動は単なるボランティア活動ではなく、自社製品を使用して能登の町おこしのために同僚とみんなに参加できる、楽しみなイベントとなっているようです。



イルミネーションの組立て・設置作業

### 様々な交流活動で築かれる地域社会と技能実習生との良好な関係

石川サンケン株式会社ではこのほかにも、会社の創立記念日の地域清掃活動や、企業による奉仕活動としての海岸清掃、地元の日中友好交流会の招きを受けた地域住民による料理教室への参加や浴衣の着付け、お祭りへの参加など、様々な交流活動を行っています。

過去に技能実習生として参加し、現在も後輩の技能実習生を率いてこれらの活動に参加している王さんにインタビューしたところ、このようなイベントに参加することが、自身にとっても後輩の技能実習生にとっても、日本人の社員や近隣の住民と触れ合うきっかけとなり、周りの日本人とコミュニケーションが取りやすくなるとの実感があるようです。例えば、技能実習生の受入れ当初は、技能実習生の宿舎などについて近隣から苦情もあったようですが、これらの活動を通して、地域住民と挨拶を交わすようになったり、近所の方から頂き物をした際には技能実習生からもお礼に餃子を作ってお返しをしたりするようになったなど、友好的な関係を築いています。



料理教室に参加する技能実習生

### 交流活動で生まれた感謝と思いやりの気持ち

王さんのお話では、これらの交流活動に参加し始める前は、技能実習生はみんな日本語に自信がなく、知らない日本人と関わることに不安を感じていたようですが、一度参加してみると、思っていたよりも楽しむことができたことから、その後の様々なイベント等についても、機会があればとりあえず参加してみようという前向きな姿勢を持つようになったそうです。また、「あぜのきらめき」や日本人による料理教室など、日本人の同僚や地域住民と協力して作業するようなイベントでは、みんなで同じ作業をしていれば、必ずしも言葉だけでなく、雰囲気や表情からお互いの気持ちが通じるということが分かって安心した、あるいは日本人からパワーをもらった、との感想もありました。

同時に、これらの交流活動を通して会社内での日本人社員と技能実習生の交流も深められており、お互い気軽にコミュニケーションを取るようになっただけでなく、それによって、同僚や上司に対して思いやりの気持ちを持つようになった等の変化もあったようです。例えば、作業中に発生する問題に関して、以前であれば単に上司に報告するだけで済ませていたものを、上司や同僚に迷惑をかけないようにしようとの配慮の気持ちを持つようになったことで、常に丁寧に作業するよう心がけるようになり、製造工程における問題の発生率が低下し生産性が向上するなど、工場全体としてもこれらの活動の効果を実感しているとのことでした。

取材では「あぜのきらめき」の活動の様子その他、様々なイベントや交流活動の写真をお見せいただきました。どの写真でも技能実習生や周りの日本人の方々がいきいきとした笑顔で写っており、海に面した能登の地で技能実習生が充実した日々を送っている様子がうかがえました。



浴衣の着付けをしてもらった技能実習生

今回は、実習実施機関が自社製品を使用した町おこしイベントに協力し、技能実習生を含むその社員もボランティアとして協力することで、社内や地域住民と交流を深めるだけでなく、地域全体の活性化にもつながるような事例について取り上げました。技能実習生と地域の皆さんが設置した美しい棚田の風景を、一度訪れてみてはいかがでしょうか。